

PRODUCT
BULLETINアプリケーションガイド
プロテクション フィルム:
BODYFENCE

施工に必要なもの

- 1リットルのPULVERISAT VAPORISER
- 水+洗い用リキッド
- MARJOSキージー
- CUTOLFA30 30° ブレードカッター
- LAMOLFA30詰め替え用
- “システム1-2-3”クリーニングリキッド
 - 1-リムーバー
 - 2-プレクリーナー
 - 3-ファイナルクリーナー
- PROTEC® SHAMPCARカーシャンプー
- 柔らかい布

フィルム保管は適切な環境下で保管して下さい

フィルムは熱に影響されない場所(暖房器具付近、直射日光...)などに保管してください。

保管気温は15°C~25°C

湿度は30%~70%

気温、湿度は推奨値の範囲にて保管して下さい。

フィルムはオリジナル梱包のまま乾いた汚れのないところで保管して下さい。 ロールは密封されたポリエチレンパックに包まれ、プラスチック紙管止めで紙管を固定し、製品が押しつぶされないようして下さい。

製品は常に垂直に保管して下さい。



特長

BODYFENCEは透明な糊付きフィルムで、ボディの塗装面を保護する目的で開発されました。飛び石、虫汚れ、洗車ブラシキズ、その他小さな擦りキズにも優れたボディ保護機能を発揮します。

施工面の準備

BODYFENCEフィルムを上手く施工するには施工表面は常にきれいでなければなりません。ボディ塗装面にオイルやグリース、ワックスなどの汚れがないようクリーニングを十分してください。施工前には、表面がダメージを受けないか小さい範囲で予備テストを行って下さい。

BODYFENCEの技術的な情報などはwww.hexis-graphics.com内にありますテクニカルデータシートをご参照下さい。

目次

1. おすすめ.....	2
2. 施工面の予備テスト.....	2
2-1. サブストレートの予備検査.....	2
2-2. 接着テスト.....	2
2-3. ガス抜きテスト.....	2
2-4. ガス抜き手順と火災処理.....	2
3. クリーニング.....	3
3-1. きれいな表面.....	3
3-2. 汚れた表面.....	3
3-3. ひどく汚れた表面.....	3
4. BODYFENCEフィルムの施工方法.....	3
4-1. オーバーラップありのストレートカット.....	5
4-2. オーバーラップなしのカット.....	5
4-3. 仕上げ.....	6
5. BODYFENCEフィルムのクリーニング及びメンテナンス.....	6
6. 除去方法.....	7

施工方法はメーカーの経験に基づいたものであり、限定的なものではありません。

簡単に楽しく施工する為にHEXISはトレーニングセッションを開催しています。プロのインストーラーから施工方法など学ぶ良い機会ですのでHEXIS セミナーへのご参加をお勧め致します。

1. 製品のポイント

- BODYFENCEフィルムの粘の定着は、施工の24時間後に発揮します。
- BODYFENCEは車のバンパーやボンネット、ドアなどボディの一部への施工に適していますが、ボディ全体の表面にもお使い頂けます。
- 必要な長さだけフィルムをカットした後は、残りのフィルムはオリジナルコアで保管して下さい。
(ロールは様々な長さに切らないで下さい。 又、製品を包装し直さないで下さい。)
ロールは長時間、パッケージから出した状態にせずテープやロールカラーで留め、直ぐにパッケージを閉じ品質を保護して下さい。

2. 施工面の予備テスト

施工前にインストーラーは、フィルムの施工箇所の表面、塗装状態を必ず調べて下さい。
再塗装されている場合、再塗装面の剥がれなど施工時・フィルム除去時など塗装面にダメージを与える可能性があります。 塗装面の状態確認後、インストーラーの責任において作業実施の判断を行って下さい。

2.1. 塗装面の確認

- 新車のボディなど新しい塗装面は25℃で最低7日間は完全に乾かして下さい。
複層の塗料が乾燥しきれてなく、ガスが完全に抜けていなければなりません。
ガス抜きテストはフィルム施工前に実施して下さい。
- 古い粉末状になった又は、剥がれかけた塗装については、施工前に磨き落としてから切り抜きテストを行って下さい。

2.2. 接着テスト

TESA®7476糊付きテープ又はそれ同様のものを2.5cm×2.5cmの範囲に施工し、確保して下さい。
折り曲げ、表面から垂直に素早く引いて下さい。 剥がした糊の上に痕跡が残ってはいけません。
これらの工程を数カ所で繰り返して下さい。

- ご要望に応じてHEXISはTesa®糊付きテープ2.5cm×2.5cmをお取り寄せいたします。

2.3. ガス抜きテスト

15cm×15cmの正方形にした糊付きポリエステル又はBODYFENCEフィルムを使用して下さい。
65℃で2時間又は24時間BODYFENCEを貼り状態変化を確認して下さい。
もし気泡が発生したら、ガス抜きが不十分という事になります。
塗料が乾燥するまでこの工程を繰り返してガス抜きを確認するか、あるいは以下の手順を行って下さい。

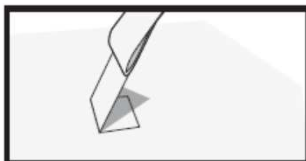
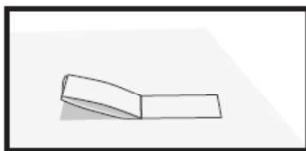
2.4. ガス抜き手順と火炎処理

(ポリカーボネイト、半透明又は拡散メタクリル樹脂、 拡張したPVCなど)
ガスバーナーの青い炎の部分を使って、短時間で熱して下さい。
この方法で表面張力を変えることから、多少のガス抜きが出来ます。

- ・一定箇所を炙るのではなく、まんべんなく炙るようして下さい。

この工程後は直ちにフィルムの施工を始めて下さい。 時間を置いしまうとこの処理の効果がなくなる可能性があります。

- HEXISではガス抜きによって発生した気泡の処理について、一切の責任を負いません。



3. クリーニング

表面の掃除は施工前に必ず行って下さい。表面がほこりで汚れているという事を常に仮定して下さい。少量の汚れ残りは見えない場合があります。フィルムの粘着力に影響を与えるかもしれませんので表面クリーニングは重点的に実施して下さい。

・クリーニング用リキッドなどを使用する前には、www.hexis-graphics.comにあるテクニカルデータシートと安全性データシートをご確認下さい。

3.1. きれいな表面

車体をラッピングするには、カーシャンプーの『SHAMPCAR』を使用し軽く洗車して下さい。その後PRE CLEANER (製品No.2)を使用する事をお勧めします。

- 表面にスプレーして下さい。
- 少し経ったらきれいな布で拭いて乾かして下さい。
- 最後にFINAL CLEANER (製品No.3)を使って仕上げクリーニングを行って下さい。

Shampcar
Concentrated vehicle
shampoo



3.2. 汚れた表面

汚れているボディには、洗車の際SHAMPCARを使用し十分汚れを落として、その後PRE CLEANER (製品No.2)を使用する事をお勧めします。

- 表面にスプレーして下さい。
- 少し経ったらきれいな布で拭いて乾かして下さい。
- 最後にFINAL CLEANER (プロダクションNo.3)を使って仕上げクリーニングを行って下さい。

Pre Cleaner
Powerful universal
cleaning agent



3.3. ひどく汚れた表面

ひどく汚れているボディには、洗車の際SHAMPCARを使用し、その後ADHESIVE CLEANER (製品No.1)を使用する事をお勧めします。

換気の良い場所で作業を行って下さい。肌には刺激が強いため手袋を使用し、目を保護するためゴーグルの着用をお勧めします。

取り扱う前に表面の小さな範囲で互換性テストを行って下さい。ADHESIVE REMOVER (製品No.1)で特定のプラスチック素材はがダメージを受けるかもしれません。

- 汚れた表面にスプレーし、乾いた布で拡散して下さい。
- その後、少し経ってから再度ADHESIVE REMOVER (製品No.1)をスプレーし、きれいな布、又はスキージーを使って拭き取り乾かして下さい。
- 表面がきれいに乾いてから、再度PRE CLEANER (製品No.2)でクリーニングし、その後FINAL CLEANER (製品No.3)で仕上げを行って下さい。

Adhesive Remover
Powerful cleaning
agent



Final Cleaner
Cleaning and
degreasing finishing
agent



4. BODYFENCEフィルムの施工方法

施工時の最適な最少温度は10℃です。出来れば15℃～35℃が望ましいです。

水張りにて施工を行って下さい。

➤ 施工するにあたり、『HEXIS O (オー)』の使用を推奨しますが、ご用意ない場合は水とイソプロアルコールを2:1の割合にて混合した施工液をご用意頂きご使用下さい。水のみでの施工、中性洗剤混合液での施工よりも、アルコール混合液を使用することで水切れ、泡残りもなくフィルムの接着性を加速します。



Figure 01

➤ 施工面をメジャーなどで計測し必要分のフィルムをカットして下さい。アプリケーション中にフィルムに指の跡を残さない為に、ラッピングする施工面の+10cmの大きさをカットするようにして下さい。(FIG. 01)



Figure 02

➤ 注意しながらBODYFENCEの離型紙を剥がして下さい。(FIG. 02)

➤ 離型紙を剥がす際は、必ず手も施工液で濡らしてから施工して下さい。
(手を濡らさずに施工した場合、フィルムに指紋が残る恐れがあります。)



Figure 03

➤ 施工面に対し十分に施工液をスプレーし(例としてボンネットフードから貼り始めます。) BODYFENCEの糊面もスプレーで十分に濡らして下さい。(FIG. 03)

フィルムの位置決めをするには、すべてのものが十分に濡れた状態で、フィルムを滑らせることがより良くポジショニングできるポイントです。



Figure 04

➤ ボディを挟んで両側からしっかりとストレッチさせ、すばやくBODYFENCEを施工面に被せ合わせて施工して下さい。(FIG. 04)



Figure 05

➤ スqueegeeを上手く滑らせる為に、施工液をBODYFENCEフィルム表面にスプレーし、その後MARJO (スqueegee) を使って45° の角度で施工液をかき出すように、しっかりと粘着させて下さい。

➤ ボディ表面の塗装品質は必ずしも平滑ではないので、スプレーした施工液をしっかりとかきだすことにより塗装の多少の凹面 / 凸面に対しても接着性を高めることが出来ます。

約5分ほど作業を中断し、BODYFENCEの定着を確認しましょう。

- ボンネットフード施工後は、フェンダー、ドアやバンパーなどボディ後方へと同様に施工して下さい。
- BODYFENCEフィルム施工中、余分な部分をカットして下さい。

4.1. オーバーラップありのストレートカット

塗装表面を傷つけない為に、カッター刃先は垂直に向けないよう気を付けて下さい。

- カッターの刃先は、必ず新しい状態のものをご使用下さい。
- カットについて、カッターの刃先はボディ隣接部の縁に位置していなければなりません。カットの際は常に同じラインに沿って、ブレードは外に傾けカットして下さい。(FIG. 06)
- フィルムの縁2〜3mmはエッジ処理の為に残しておいて下さい。



Figure 06

- 繋ぎ部分がない場合、2〜3mmフィルムを余分に余らせカットして下さい。(FIG. 07)
- フィルムの余分な部分をカットして下さい。



Figure 07

- 仕上げにカットした部分をスキージーで走らせて下さい。エッジに向ってスキージーを傾けて下さい。(FIG. 08) エッジや湾曲した部分に近い箇所をしっかりと圧着させるよう施工して下さい。
- コーナーなどでのカットはシャープな角度でカットするのではなく、常に曲線にてカットして下さい。



Figure 08

4.2. オーバーラップなしのカット

この方法は、ジョイントやその他分解出来ない部分のカットの為に使われます。

- カッターナイフは必ず新しいブレードの状態のものをご使用下さい。
- 指で輪郭の部分をトレースして下さい。ジョイントのへこんだ部分にスキージーを使って押し込んで下さい。
- カットについて、ブレードはボディとジョイントの間で水平な状態でなければなりません。そしてジョイント部に対して垂直でなくてはなりません。カットの際は刃先の向きに注意しながら同じ方向で走らせて下さい。
- 余分なフィルムをカットして下さい。

- コーナーなどでのカットは、シャープな角度でカットするのではなく、常に曲線にてカットして下さい。
- カット後、仕上げにスキージーをしっかり走らせて下さい。

4.3. 仕上げ

- スキージーと吸水性ある紙や布をスキージーにまき、カットしたエッジの水気を出来る限る取り除いて下さい。(FIG. 09)



Figure 09

- エッジ、曲線部や隣接部など、スキージーでしっかり施工して下さい。(FIG. 10)



Figure 10

- エッジなどにシワが出来てしまった場合、指で30秒間押して下さい。(FIG. 11)



Figure 11

5. BODYFENCEフィルムのクリーニング及びメンテナンス

BODYFENCE フィルムは傷などの自己修復機能、汚れ防止機能、落書き防止機能を備えており、メンテナンス用洗剤などを使用してクリーニングすることが出来ます。

慎重にクリーニングをして下さい: 50cm以内の高さで35°Cの温水を掛けると修復されます。

- ・ 注意: 施工後48時間以内は車両の移動、クリーニングを行わないで下さい。
フィルムが剥離するなど粘着性に影響を与えるかもしれません。
- ・ 注意: 溶剤及び腐食性の洗剤は使用しないで下さい。
- ・ 注意: HEXIS社製フィルムの施工面に対し、HEXIS社外製クリーナーなどでフィルム表面をクリーニングした場合に
発生するフィルム表面への色褪せなど影響について責任を負いません。
インストーラーの責任において作業実施の判断を行って下さい。
- ・ 洗車: 添加剤の製品と回転ブラシでは、フィルムの粘着性を害する事があります。ポリウレタン塗料の車を10台洗車した後、筋がついた事が認められました。したがって同様にフィルムを傷つけるこれらの洗車方法について我々は責任を負いません。

HEXIS 情報: 保護する表面をクリーニングする前に、小さな範囲でクリーニングのテストを行うことをお勧めします。

6. 除去方法

BODYFENCEフィルムは、簡単に除去出来るようデザインされた特別な糊を使用しています。

- 表面を傷つけないようカッターでフィルムコーナーを持ち上げ、徐々にフィルムを剥がして下さい。フィルムを剥がす際は、表面から70° ~ 80° のアングルで徐々に剥がすようにして下さい。
- 剥がす際のアングルが鋭い場合、フィルムが切れる原因になります。
 - 施工後の車両保管状況により粘着力が強まり剥がしにくい場合があります。
無理に引き剥がそうとすると糊残りが発生する場合がありますので、粘着力が強い場合はフィルムを引き裂くリスクを下げる為、**小さい範囲でヒートリングして糊を柔らかくし、少しずつフィルムを剥がすようにして下さい。**
 - ヒートリングすることで引き剥がせるようになった引っ張り角度を維持しながら、ゆっくりと糊残りが残ったフィルムを完全に取り除いてください。
 - もし糊残りがあった場合、ADHESIVE REMOVER (製品No.1)に布を浸け、表面を磨いて下さい。
- 又樹脂製プラスチック及びゴム類にREMOVERを接触させないで下さい。
変色、溶けるなど破損させる影響があります。
- リキッド製品を取り扱う前にはwww.hexis-graphics.com内のテクニカルデータシートをご参照下さい。



www.hexis-graphics.com

HEXIS S.A.
Z.I. Horizons Sud - CS 970003
F - 34118 FRONTIGNAN CEDEX
FRANCE
Tél. +33 4 67 18 66 80
Fax +33 4 67 48 38 79
E-mail: info@hexis.fr